

【特集】新学習指導要領と「大学入学共通テスト」へ向けて 大学入試における民間の資格・検定試験の活用 —「大学入試英語成績提供システム」の参加要件確認結果—

1. 「大学入試英語成績提供システム」とは？

「大学入試英語成績提供システム」とは、「聞く」「読む」「話す」「書く」の4技能を適切に評価するため、大学入学者選抜における民間の資格・検定試験の活用を支援するためのシステムである。大学入学共通テストの枠組みの中にあり、資格・検定試験の成績を大学入試センターに一元的に集約し、要請のあった大学等に提供するというものである。

大学側は、自らのアドミッションポリシーに基づき、資格・検定試験の結果を活用することになる。

- 例
- ・ 共通テスト(2技能)の得点に加点
 - ・ 個別選抜試験の免除
 - ・ 個別選抜試験の出願要件 など

2. 「大学入試英語成績提供システム」の参加要件確認結果

「大学入試英語成績提供システム」の参加要件を満たしていることが確認された資格・検定試験は、右表の通りである。

7実施主体の22資格・検定試験が参加要件を満たすと判断された。IDP: IELTS Australia が実施するIELTSについては、申請日(平成29年12月)時点での日本における実績は不十分であるものの、今後実績が見込まれるため、このことを条件に参加要件を満たすと判断された。

一方で、「リングスキル」は「日本国内での2年以上の実績」がないこと、「英検」の従来型は「1回の試験での4技能全ての評価」ができないことを理由に、参加要件を満たすと判断されなかった。

なお、参加要件を満たすと判断された実施主体に対し、今後一層の取り組みを求めたい事項として、

- ①検定料の配慮
- ②試験実施会場の配慮
- ③障害等のある受検生への合理的配慮

の3点が挙がっている。

3. 今後の予定など

今後は、各実施主体と大学入試センターとの間で協定書を取り交わした上で、平成32年度(2020年度)に実施される平成33年度入学者選抜から、成績提供システムに参加することとなる予定である。

実施主体名	資格・検定試験
Cambridge Assessment English (ケンブリッジ大学英語検定機構)	ケンブリッジ英語検定 —C2 Proficiency C1 Advanced B2 First for Schools B2 First B1 Preliminary for Schools B1 Preliminary A2 Key for Schools A2 Key
Educational Testing Service	TOEFL iBT テスト
IDP: IELTS Australia ※条件付き	International English Language Testing System (IELTS) (対象：アカデミック・モジュール)
一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会	TOEIC® Listening & Reading Test および TOEIC® Speaking & Writing Tests
株式会社 ベネッセコーポレーション	GTEC —Advanced Basic Core CBT
公益財団法人 日本英語検定協会	Test of English for Academic Purposes (TEAP) Test of English for Academic Purposes Computer Based Test (TEAP CBT) 実用英語技能検定(英検) —1級 (公開会場実施) 準1級(公開会場実施・1日完結型) 2級 (公開会場実施・1日完結型・4技能 CBT) 準2級(2級と同様) 3級 (2級と同様)
ブリティッシュ・カウンシル	International English Language Testing System (IELTS) (対象：アカデミック・モジュール)

(数研出版 編集部)